

河原紙器株式会社

日本パッケージング コンテストへの取り組み

9年 連続受賞!!

愛知の地で創業以来 100 余年。一貫した紙器製造により今日の発展を築き上げて参りました。

これまで多岐に渡る分野のお客様との取引により、設備改善・技術改革を社員一丸となって取組んで

参りました。今回ご紹介させて頂く資料は、弊社の技術開発に対する取組みの一つとして実施しております「日本包装技術協会主催 日本パッケージングコンテスト」への受賞記録となります。※日本パッケージングコンテストは、包装における「デザイン～ロジスティック」に至るまでのその年の優れた包装を決定するもので毎年開催されております。尚、受賞作品には優れた包装の「証」である「GP マーク」の使用が許可されます。

- ・1981年「美粧ディスプレイカートン」にてアジアスター賞を受賞。
- ・1992年「医療廃棄物容器メディックス」にてアジアスター賞を受賞。
- ・2005年「ポップティッシュ」にて包装部門賞を受賞。
- ・2009年「大和三山」にて菓子包装部門賞を受賞。
- ・2013年「ジッパー」にて包装アイデア賞を受賞。
- ・2014年「吸収性骨再生材料セラリボンH」にて医療品・医療具包装部門賞を受賞。

2015年 工業包装部門賞



「834Q93」

省資源構造で最大限の保護性を持たせた。製品全体が目視でき、製品の突起部分が曲がらない条件のもと開発。糊貼り、テープを使わず包装作業が容易に行えます。

2016年 菓子包装部門賞



「マスケラータアソートボックス」

上下2段の身箱上段を後方へ開くことにより、「商品面積」が広がります。開発コンセプトであった「パーティー感」や「ギミック性」を構造設計により表現することができました。

2017年 日用品・雑貨包装部門賞



「S額箱」

卓球ラケット面のサイズ差・板厚差、グリップ部のサイズ差などを考慮し、約50種類の差分を1つのパッケージにてホールドし保護性を高めました。また、海外製品による偽造防止も開発目的とされ、特種印刷による独自性を高めました。

2018年 日用品・雑貨包装部門賞



「東京メトロカラー」

カラフルなインクボトルを目立たせるため、蓋の天面に穴を開けました。身蓋という単純な構造ですが、天パットをPET0.4mmにすることで、強度を保ちつつ中のインクボトルを見せることを可能にしました。

2019年 贈答品包装部門賞



「国産果実凍らせて食べるゼラート」

ゼラートの入った個箱を、氷山を連想させる逆台形で表現しました。個箱どうしが支え合うことで、輸送の振動や衝撃に耐えられる事を可能にしています。外箱は、身の深さを内容物より低くし、ボリューム感をだす事で、正面から撮影するカタログ写真でも立体感が伝わるよう工夫しました。

2020年 輸送包装部門賞



「軽井沢高原ビール3缶入り箱」

缶底部に記載されている賞味期限を目視にて確認するため開発された包材です。箱底部に中身の本数分の大きな穴を開けつつ、機械にての貼加工を可能とした「新しい底貼」パッケージとなっております。

2021年

包装技術賞・適正包装賞

「発想は無限 フレキシブル ギフトボックス」

現場の声を重視した「消費者ニーズ+販売者ニーズを喚起させる為のギフト開発」を実施。様々な内容物に対しフレキシブルに対応する事を可能にした特徴的な仕切パーツを共同開発するに至りました。全ての仕切が、異なるサイズのギフト箱に対し共通部材として使用可能であり、折り方・入れ方・使用方法を問いません。

